

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 4 5 回相模原市社会福祉審議会児童福祉専門分科会				
事務局 (担当課)		健康福祉局こども育成部こども青少年課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 8 1 1 (直通)				
開催日時		平成 2 8 年 1 月 2 6 日 (火) 午後 7 時から 8 時 2 0 分まで				
開催場所		けやき会館 2 階 大研修室				
出席者	委員	1 0 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	1 0 人 (こども育成部長、他 9 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 こども育成部長あいさつ 3 議 題 (1) 小規模保育事業所の認可について 4 そ の 他 5 閉 会				

主な内容は次のとおり。【 は委員の発言、 は事務局の発言】

1 開 会

2 こども育成部長あいさつ

3 議題

(1) 小規模保育事業所の認可について

資料に基づき担当課から説明し、質疑の後、了承された。

連携園の設定については、5年の猶予があるということだが、それぞれの連携園の設定状況についてお聞きしたい。

・(仮称) ゆうゆう保育園

現在、認定保育室を運営しているが、利用状況はどのようになっているのか。

定員は、ほぼ埋まっているような状況である。

連携園はどうなっているのか。

現在は設定がされていない。

今後の見込みとしてはどうか。

今後につきましては、この事業所だけではなく、開設しているところすべてだが、ある程度、市も関与した中で、設定に向けて調整をさせていただきたいと考えている。また、来年度以降に認可保育所等の設置をしていく場合には、近隣に小規模保育事業所等があれば、3歳児以降の枠を設けるような定員設定を事業者と相談させていただきたいと思っている。

既存園の3歳児以降の受け入れに対する選択の余地が狭まるということで、その園としての保育のあり方に影響はでてこないか。

連携園については、今年度小規模保育事業所をはじめたところでもそうだが、近くで認可化されたような園だと、かなり3歳児の枠を増やして、連携園として提携を結んでいただいていることもあり、幼稚園の長時間預かり等を行っているところもあるので、そのようなところと連携園として提携していただいているような状況である。

幼稚園の長時間預かりを行っているところも連携園としての位置付けもあるのか。

3歳児以降の受け皿だけではなく、小規模保育事業は比較的にじんまりした形なので、園庭等の使用や、集団の中での保育の場を確保することで、日常保育での連携も協力いただいているような状況である。連携園なしで始まった何園かの小規模保育事業所が近隣の保育所と提携を結んでいる事例も増えてきている。

連携園については、努力されているのは分かるが、やはり、すべての子どもに対して保

障しないといけないので、そこは小規模保育事業所を認可する段階から検討して、青写真を作っていないと、保育の質や子どもの成長、発達の全体を見通した支援ができなくなる恐れがあると思う。結局、場当たりに、空いているところや新規に始まったところに子どもがたらいまわしにされている状況になってしまうし、既存の幼稚園や保育所と連携できる小規模保育事業所はいいが、連携できないところもあるので、全体的な視野を持って、相模原市の保育問題をどうするかというビジョンがないと、まずいことになるのではないかと危惧する。これだけ待機児童がいるからといわれても、この状態で、3年後、5年後は大丈夫なのかといつもこの会議に出るたびに感じる。

保育士の人数はどうなっているのか。

B型については、保育士が1/2以上いけばいいことになっているが、本日、提案させているところも含めて、ほとんどが3/4以上確保されている。どちらかというとも100%に近いような状況で確保されてきている。

保育士の数など条件が満たされていない場合は、認可の取り消しとなるのか。

現状そのようなことはないが、配置基準を下回るような預かりは認められないので、まずは指導という形になると思う。

・(仮称)キンダーホームカナン

認定保育室からの移行だが、今までの認定保育室の運営状況について何か特記すべきことはあるか。

近隣で学童保育なども行っている法人で、地域の中で活動されている。また、連携園については、近隣の認可保育所に連携園となっていていただく予定と聞いている。

認定保育室は何人のお子さんがいるのか。

24名である。移行すると面積基準も若干厳しいので、減ってくるところがある。

・(仮称)保育園マミーキッズ橋本西口園

経営主体又は施設長は個人だが、いままで本市の子育て支援に関わった経緯はあるのか。認定保育室をこれまで2園運営している。

今までに2園の認定保育室を運営していて、今回新たに小規模保育事業B型を開設することについてはどのような理由なのか。

現在運営している認定保育室の定員がいっぱいのため、保育需要があってもお断りしている状況もあるので、近隣で小規模保育事業をできる場所を探した結果、場所が確保できたという状況である。

個人でも申請できるが、社会的に責任のある子育て支援団体、もしくは法人としての将来的な展開については何か話はあったか。

現状では、特に法人化という話は聞いていないが、独立の会計ということになっている

ので、そのようなことも検討されるのではないかと思います。

小規模保育事業所などを個人で運営している場合、行政としては将来的に好ましい方向をどう考えるのか。

これまでも新しい小規模保育事業所については、現状、公立保育所のOBの園長経験者による巡回支援を行っている。保育内容だけではなく、今後は経営全般面の支援も必要だと考えるので、税理士や公認会計士を含めた支援の巡回のチームを今後検討して、適切なアドバイスができるようにしていきたいと考えている。

・(仮称)相模中央保育園

現在、幼稚園を設置運営しているが、メリットや今後どのような展開、展望を持って始めるのか。

幼稚園のすぐ近くで設置がされるので、連携園としては幼稚園を考えていると伺っている。

これは連携園以上である。認定こども園ではなく、0歳から一貫して子どもの需要を確保していくとなればこの方法はいいと思う。

幼稚園で敷地が余っているところはまだまだたくさんあるので、園庭を十分確保できているところであれば、小規模保育事業の設置について手を上げやすい方法だと思う。

検討させていただきたい。

幼稚園は幼保連携型認定こども園に移行することに抵抗のある園がかなり多い。それは幼稚園をいったん返上しなければいけないからである。幼稚園型の認定こども園と小規模保育事業所の組み合わせはありだと思う。

実際に保育所から幼稚園にという希望があるように聞いているが、そのあたりの実態等で分かるところがあれば、今後教えていただきたい。基本的に子どもの保育が充実するということはいいことであり、また、子どもの保育、子育て支援という意味で子どもの支援がしっかりできるということは望ましいことなので、制度的な問題と子どもにとって、どのような保育がいいのか、市として模索していく必要がある。

・(仮称)保育所みらい

本市との関わり合いは何かあるのか。

現在、相模大野で認定保育室を運営している。

連携園はどうなっているのか。

連携園については、近隣で認可化した園や認可化を予定している園と話をしていると伺っている。

運営方針にある、こどものしあわせを最優先にするというのは、非常に漠然としている。

しあわせというのは価値観によってだいぶ違ってくるのであって、他の事業所をみると具体的に書かれており、やはり、事業主の理念というか、そのようなものはとても大切なのではないかと思う。経営するにあたって、安全を最優先するか、利益を上げていくかということもあるので、もう少し具体的に理念がはっきりするような方針を出された方がいいと思う。

他の事業所も含め、利用者にとって分かりやすいような、中身が分かるような書き方にしてもらいたい。

本専門分科会の委員の皆さまで、小規模保育事業所の現場を視察させていただき、様々な話しや意見交換などをする機会を設けていただきたい。

提案した内容がしっかりと現場できているのかどうか、モニタリング等をしていただくことはいいことだと思うので、調整をさせていただきたい。

4 その他

連携園は5年間の猶予があるという話だと思うが、現状、実際に困るような人はいないのか。

今年度は、ここで2歳で卒園をされる方は市内で95名程度いる。連携園、保育所や幼稚園に行かれる方が27名と承知をしている。残りの60名強については、保育所等利用選考基準の見直しにより、卒園児の優先利用について対応を図った。現在、本人の希望等を参考にアテンダントが入所調整を進めている。まだ、すべての児童について決定がされていないが、市としては卒園後に保留となることのないようにしていきたい。

就学児童数はどんどん減ってきているが、入所の申込者数はどんどん増えているのは、どのような理由なのか。

国会での議論を聞いていると、20代前半から40代ぐらいの働いている人は増えていないとも言われている。相模原市の場合は働く方が多少は増えていると思うが、保育所を申し込む方は、これまで4人に1人であったのが、今は3人に1人強になってきているということで、保育所を申し込まれる方が増えてきている。特に1歳になって保育所という方が非常に多くなってきているというのが、市内の実態かと思っている。

その原因として、本来お母さんが子どもを見ていかなければいけないのに、それを簡単に預けられるということで、その権利をお母さんが手放しているのではないかと思う。それは本来の子どもの育て方ではないと思っている。お母さん達ができるだけ自分の子どもを見ようとした時に、仕事でどうしても見るできない場合は、保育所に預けるのは確かに仕方がないが、それが本当に子どもの幸せになるのかどうかを非常に疑問に思っている。

子育てを家庭でする部分、保育所や幼稚園で保育・教育をする部分、さらには地域で子

育てをしていくということで、全体を考えていけないといけないということかと思う。最近是非常にリスクの高い親子関係の部分も増えてきている実態もあるので、委員の意見も踏まえながら、様々な地域の子育てをどのような方向にしていくのかということをして今後、議論ができたらいいいと思っている。

ぜひ、お母さん達が簡単に相談できる場所や、子どもを連れて行ってお母さん同士がコミュニケーションをとれるような場所を積極的に提供されると、もう少し減ってくるのではないかと思う。

市内の公立と民間の認可保育所のすべてが子育て支援事業ということで、預かっているお子さん以外の地域にいる親子の支援を行っている。保育所に入れなくて本当は自分で育てたいというお母さんもたくさんいる。ただ、孤立化や、育児に悩んだ時に相談する場所がないということで、保育所が専門性を活かした形で援助をしており、地域の子育て事業に力をいれている。

- ・事務局より、今年度の本分科会の開催は最後となるが、審議をいただきたい案件が生じた場合は、開催をさせていただくこととした。

5 閉 会

児童福祉専門分科会 委員名簿

(平成28年1月26日)

番号	氏名	役職・推薦団体	備考	出欠席
1	はら ひろこ 原 裕子	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
2	とつか ひであき 戸塚 英明	相模原市社会福祉協議会		欠席
3	うちだ のりこ 内田 紀子	相模原市私立保育園園長会		出席
4	いわもと つとむ 岩本 勉	相模原市幼稚園協会		出席
5	ひらの ひろこ 平野 裕子	相模原市母子寡婦福祉協議会		出席
6	おおみぞ しげる 大溝 茂	桜美林大学教授	専門分科会長	出席
7	ふくだ すみこ 福田 須美子	相模女子大学名誉教授	職務代理	出席
8	さくらい なつこ 櫻井 奈津子	和泉短期大学教授		出席
9	あいざわ ゆみ 相澤 由美	相模原人権擁護委員協議会		出席
10	しながわ よういち 品川 洋一	相模原市医師会		出席
11	いまい かつあき 今井 勝明	相模原市立小学校長会		欠席
12	なかにし ふみお 中西 文夫	相模原市立中学校長会		出席